

— 追 悼 —

清水真一氏のこと

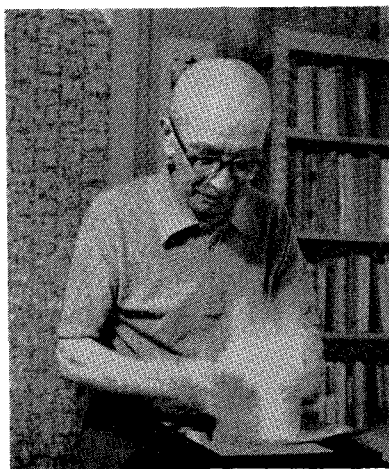
静岡県島田市の清水真一氏が他界された、との報に接したのは、観測のために滞在中の木曾観測所で、6月3日の夜のことであった。訃報を知らせてくれたのは、清水市の浦田 武氏である。清水氏については、すでに多くの紹介記事がある。ここで改めて追悼文を私などが書くのは甚だ僭越なことながら、思い出すままに書かせて頂くことにした。

清水真一氏は 1889 年のお生まれと聞いているから、享年 96 歳である。近年は、星覗きから離れ、家業の薬局（知新薬局）も御子息にゆだね、悠々自適の日を送られていたと聞いている。

今、東京天文台には Si の記号で始まる一群の写真原板が保存されている。1931 年 11 月 29 日にその第 1 枚目が始まり、1943 年 9 月の 1400 番で終わっている。対象は彗星、小惑星、新星、掩蔽、日・月食などの直接写真から、明かるい恒星のスペクトルまで含まれている。これら貴重なデータが、戦後に東京天文台へ研究資料として寄贈されたのである。清水氏といえば、天体写真の草分けとして、多くのアマチュアには神格化された存在であった。家業のかたわら、一心に撮影され続けた天体写真のデータである。この中には、1937 年 1 月 31 日 18 時 45 分～19 時 45 分までに撮影された Si 947 と Si 948 の乾板がある。清水氏は口径 8 cm、焦点距離 33 cm のエルマザーレンズを持つ 2 台のカメラを同架し、ツインカメラとして使用されていた。誤認を防ぐ配慮からである。従って、同時に撮影された乾板は 2 枚で連番番号が与えられている。この乾板こそ、1909 年の初観測以来行方不明になっていた。ダニエル周期彗星の再検出に成功された時の原板である。この検出の功績により、同彗星の位置推算に功績のあった今は故人になられた広瀬秀雄博士と共に 1939 年 4 月 23 日に、日本天文学会天体発見賞を受賞された。

このダニエル彗星は、1937 年の検出以来 1943 年、1950 年、1964 年、1978 年に出現が検出され、1985 年 7 月 27 日にはパロマー山天文台のギブソンにより光度 20 等で回帰中の姿が捕えられていて、現在も尚健在である。当時、清水氏が使用された乾板は、外国製がほとんどであったが、富士写真フィルムの研究所長・藤沢 信氏に特に依頼されて製作されたのが、後日 FLO などと呼ばれプロ、アマ両者で愛用された富士天体用乾板の前身である。1976 年には「天体写真における功績」により、日本天文学会神田茂記念賞を受賞されている。

清水氏が使用された口径 10 cm 屈折望遠鏡は、戦後の



ありし日の清水真一氏（1967年7月11日）

一時期、静岡市の県立葵文庫で天文教育・普及に活躍し、現在は島田市内に保管されていると聞いている。

1950 年代に東京天文台では天体掃索部が主になり、月の等縁線上での恒星の掩蔽の同時観測を実行していた。さらに 1953 年に始まった 74 吋反射望遠鏡の設置計画が、候補地設定、試験観測と進行中であった。74 吋の設置候補地の一つに静岡県中部が選ばれた。掩蔽観測はほぼ全国行脚であり、74 吋試験観測は 1 ヶ月の内 10 日間を同じ試験観測地で過す。そのいつれの時にも愛用のステレオ・カメラを肩に、にこやかに「慰問です」と訪ねられていた。観測者が物心両面で受けた御支援は、大きな支えとなったことはいうまでもない。

1986 年 7 月 21 日現在、正式に登録されている小惑星の数は 3486 個である。その中の 2879 番は “Shimizu” と名付けられている。名付けたのは、この星の同定者の浦田 武氏で、清水真一氏の功績を讃え、長く後世に残したいためであると聞いている。

今、私の手元には過去何年間に頂いた年賀状がある。楽雅奇堂漫吟として “生き延びて 97 歳の春を迎えんとす（中略） 我や今大空覗き離れて 40 年 珍客ハレー未だ會せず（後略）” 昭和 61 年丙寅元旦 楽雅奇堂主とある。

珍客ハレーにはお会いになりましたでしょうか？

心より御冥福をお祈り申し上げます。

（東京天文台・香西洋樹）

50 年も前のことですが、静岡師範の生徒だった私は天文に夢中になっておりました。学校の図書室の天文の

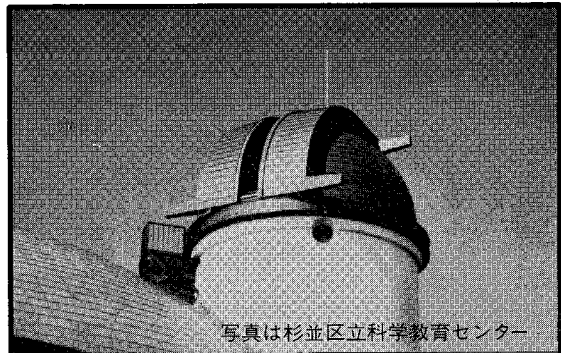
本、学校の前にあった葵文庫の本、毎日飽きもせず耽読し、夜は校庭で星空をながめる。物理教室にあった小さい望遠鏡で黒点をしらべる。何とか望遠鏡をと材料を集める等々。

こんな私をみて絵の先生が清水真一さんに紹介して下さいました。それから氏の御指導をうけることになりました。休みのたびに島田へ行き、先生の御宅へ上りこんで望遠鏡をみせていただいたり、書齋の本や資料をみせていただきました。氏が天文関係の方々を招かれた時にそばにおらしていただきました。

一番ごめいわくをおかけしたのは、卒業前の年末・年初の休暇に、島田市内に下宿して毎日おじゃましたことです。

卒業して伊豆の小学校につとめる様になり、忙しい日々天文どころでなくなりました。その後、東京への遊学、関西への赴任などで清水さんのことは心に思うだけになりました。その後、ずっと教職にあります。毎日、あの頃の私と同じ年頃の生徒たちを見るたびに礼儀知らずの私をかわいがって下さった氏のことを思い出します。訃報を新聞紙上に拝見し、御冥福をお祈り致します。

(本会会員、東京都立巢鴨高校・大野直良)



写真は杉並区立科学教育センター

★営業 ASIBO 品目★
天体望遠鏡と双眼鏡
ドームの設計と施工

▶主なドーム納入先◀

東京大学宇宙航空研究所／東京大学教養学部／東京学芸大学／埼玉大学／福島大学／川崎市青少年科学館／杉並区立科学教育センター／駿台学園高校（北軽井沢）／船橋市立高校／高知学園／土佐市公民館／刈谷市中央児童館等の他、日本全国に100余基の実績。

ASTRO 光学工業株式会社
東京都豊島区池袋本町2-38-15 ☎03(985)1321

天体観測雑誌

天文ガイド

10月号 定価420円＋税 9月5日発売！

電波で宇宙をながめると…？
電波で見た天文学

要注意流星群が2つも！
オリオン座流星群とりゅう座流星群

夜明に見られる楽しみな
10月18日の皆既月食

大接近した火星はどうだったのでしょうか
火星速報

●コンピュータ・セミナー●10月の星空
●とびつくす●質問ルーム…など情報満載！

今月は18日に皆既月食が見られます。オリオン座流星群とりゅう座流星群というハレー彗星がらみの流星群もあります。秋の澄みきった空がにぎやかに飾られるでしょう。

新刊・近刊案内

星座の見つけかた



●星座早見カード方式

1月から12月までに見られる夜空の様子をひと月ごとに、わかりやすく紹介します。切りとって野外でも使えます。

藤井旭・構成 定価1200円

切りとる本 天体観測星図集

天文ファンの必需品がまたひとつ！

社会科の時間に使った白地図と同じ要領の便利な「白星図」が登場しました！星の位置や観測データが自由にかきこめる待望の本です。

目盛り板もついているので、とっても正確！

近日刊 藤井旭 企画・構成 予定価850円

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
電03(292)1221 振替東京7-128